

1. 評価報告概要表

作成日 平成21年2月4日

【評価実施概要】

事業所番号	1172502211
法人名	社会福祉法人 桑の実会
事業所名	康寿園グル - プホ - ム輝
所在地	郵便359-1106 埼玉県所沢市東狭山ヶ丘 6-2796-1 (電話) 04-2929-8811

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成21年1月27日

【情報提供票より】(平成 20年12月14日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年1月11日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 2人, 非常勤 15人, 常勤換算	15.3人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	2階建ての1階～2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	59,160 円	その他の経費(月額)	22,680円 + 実費	
敷金	有(150,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日あたり 1,380円				

(4) 利用者の概要(12月14日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	3 名	要介護2	9 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	73 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	吉川病院 所沢中央病院 山口歯科 村田医院 豊岡第一病院 豊田整形外科病院
---------	---------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホ - ムは、「桑の実会」が運営母体となっているグループホ - ムである。「その人らしく輝いて欲しい」という理念のもと、職員は利用者の伴奏者となるように、活き活きと笑顔で介護に励んでいる。ホームは住宅地の中にあり、小中学校に隣接している。ホームの中は廊下を含め共有スペースなど広くゆとりがあり、地域交流室を自治会やボランティア会議などの地域活動に開放している。習字や絵手紙など多様なボランティアによる来訪があり、利用者の楽しみと気晴らしにつながっている。職員は、ホームの開設前から通学路に立ち小学生の登下校の見守りを行うなど、地域住民との関係ができています。また、運営推進会議には、小学校長、行政、自治会長や地域住民の参加により活発な審議が行われており、災害、防災への地域住民による支援隊が結成されるなど、協力体制が出来ており、地域に密着したグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価で挙げられた改善課題に取り組んでおり、管理者は西部地区グループホーム協議会に参加してネットワークができています。また、事例検討会や講師を招いて勉強会を開くなど、サービスの質を向上させていく取り組みが行われている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全体会議で自己評価及び外部評価の意義について説明した後、各ユニットで自己評価して改善点を見出し全員で検討した。職員には日々の業務の振り返りの機会となっている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は年数回開催され、メンバーは学校、地域、民生委員、行政、法人代表から構成されている。会議では、ホームの事業報告、行事予定や外部評価に関する説明のほか、地域活動への参加や小学校との交流、災害、防犯に向けての協力体制などについて活発な話し合いが行われている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族会が年2回開催されており、家族には意見、苦情、希望等を述べる機会もある。また、家族から表出された要望等にはできるだけ速やかに対応している。なお、入所契約時には不満や苦情に対しての相談窓口について説明している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域との交流は積極的に行われている。地域の行事へ参加するほか、ホーム行事(花見、夏祭り、クリスマス会、地域のひととの食事会)などへの招待には多くの地域住民の参加がある。また、地域交流室を地域に開放することで情報交換ができています。ホーム開設前から小学生の登下校の見守りを行うなど、地域の人々との交流に努めている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域に根ざした生活、地域住民と共にある暮らし」の運営方針のもと、その人らしさを大切にいつまでも輝いて欲しいとの願いをこめた理念を作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月のユニット会議や職員合同会議で、事例をもとに理念の実践に向けた取り組みを行っている。また、新入職員には入職時に管理者が説明指導を行い、理念の共有に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との交流は積極的に行われている。地域の行事に参加するほか、ホームの行事(花見、夏祭り、クリスマス会)などへの招待には多くの住民の参加がある。また、ホームの地域交流室を地域に開放することで情報交換がなされ、ホーム開設前から小学生の登下校の見守りを行うなど地域の人々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全体会議で自己評価及び外部評価を実施する意義について説明している。さらに、各ユニットで自己評価し改善点を見出し全員で検討しており、職員には日々の業務の振り返りの機会となっている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年数回開催されており、メンバーは学校、地域、民生委員、行政、法人代表から構成されている。会議では、事業報告や行事予定の説明のほか、参加者との情報交換が活発に行われ、災害時の協力体制についても話し合われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月事故報告書を届けに行き、助言や指導等を受けているほか、情報交換を行っている。また、市の職員から記録の書き方の指導を受けるなど、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態などについては、家族の来訪時や毎月送る利用料の明細書とあわせて報告している。担当職員は、手書きの手紙に写真を添えて「輝だより」と共に届けている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会が年2回開催されており、意見や希望等を述べる機会もある。また、家族からの要望等には、できるだけ速やかに対応するようにしている。なお、入所契約時に不満や苦情に対しての相談窓口について説明している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には職員を固定しているが、年1名程度の異動がある。その際は、利用者に事情を説明し理解してもらっている。退職者には、さよなら会を開き感謝の思いを伝えている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は内部、外部の研修を受ける機会がある。救命研修には全職員が参加し、スキルアップ、指導者研修へと進めている。また、研修受講者は研修報告書を提出しており、報告書を回覧して職員間で共有している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は西部地区グループホーム協議会に参加しており、ネットワークが出来ている。また、年2回の事例検討会や講師を招いて勉強会を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	殆どの方は、家族と共に見学を訪れ納得の上で入居している。ホームは利用者が信頼できる職員を担当にするなど、徐々に馴染めるよう家族と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	散歩や買い物、ホーム内の趣味の活動など、本人の思いや意向を尊重し、その人らしく暮らし続けることができるよう支援している。また、利用者からは、生活の知恵や幼少期に体験したことなどを教えてもらい、共に支えあう関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望については、利用者の生活歴を踏まえた上で、言葉や表情などから把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	生活歴や本人からの聞き取り等をアセスメントシートをはじめとする書式に記載し、それを基に介護計画を作成している。職員は、利用者の状況を個別に観察し、職員の意見やアイデアを反映した介護計画になるように努めている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のユニット会議で、担当者を中心に個々のケアプランの評価を行い見直しをしている。また、変化が生じた場合は、そのつど担当者、ユニット長、管理者で話し合い、家族に報告して意見を求め、現状に即した新たな計画を作成している。定期的な見直しは6か月ごとに行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	要望があれば家族に代わって通院介助をしたり、家族との外出時の送迎支援など行っている。利用者が入院したときは早期退院の支援など、家族の希望や状況により柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を大切に、かかりつけ医の受診を支援している。連携病院の医師による往診が月2回行われており、適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方については、それぞれの事情に応じた対応を心がけている。個別に対応し、ぎりぎりまでホームで過ごし入院に至ったケースがある。		家族の意向に沿った支援を行えるよう、利用者、家族、医療機関などの関係機関と話し合い、終末期のあり方について、個別性を大切にした取り組みの蓄積が期待できる。個々の状況に適した対応の方針を一層深め、関係者全員で共有していくことが期待される。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室に入る時はロックをしたり、個人を尊重した言葉づかいを徹底するなど対応に気をつけている。プライバシーの保護、個人情報の取り扱い、守秘義務については折に触れ話し合っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりのペースに合わせて支援している。本人の意思を尊重しながら、思い思いに過ごせるように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は毎食、職員と利用者で作っている。利用者は調理、片付け、テーブル拭きなど役割が決められていて、職員と共に、職員と一緒に談話を楽しみながら食事をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は隔日としている。入浴日に拒否して入浴が出来ない時は翌日に振り替えたり、時間をずらすなど柔軟に対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	居室の掃除については各自で行っている。共有部分の掃除では手摺、廊下、床など個々の能力に応じた役割が出来ている。また、ボランティアの指導のもと、書道、絵手紙、手芸などその人の生活歴を活かした楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、毎日散歩に出かけている。また、希望があれば食材の買出しの職員に同行したり、100円均一の店に行くなど希望する所へ出かけている。その他、毎月、ドライブを兼ねた外食も利用者の楽しみとなっている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解している。原則として鍵をかけないケアに取り組んでいるが、防犯上施錠することはある。居室は夜間内側から施錠する利用者はいないが、外側から職員が開けられるようになっている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議で災害対策について取り上げ、周辺自治会で支援隊を結成、連絡網を作成し、避難訓練にも参加、協力をしてもらい取り組みが出来ている。年2回消防署、地域支援隊等の協力を得て避難訓練を実施している。また、3日分の食糧を備蓄している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	系列の管理栄養士が職員がたてた献立の栄養バランスを確認している。水分、食事摂取量については食事チェック表に記入し健康状態を管理している。1日1000mlの水分量を目安にし、一人ひとりの状態に応じた支援に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は不快な音、光、臭いもなく広くゆとりがある。リビングは日当たりも良く、利用者が思い思いの場所で過ごせるように、ゆったりとしたソファや椅子が置かれている。コーナーの本棚には小説や写真集などが置かれ、好みに応じて楽しむことができ、居心地良く過ごせるように工夫している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自分の作品が飾られていたり、筆筒、テレビ、絵、家族の写真など馴染みの品物に囲まれて、居心地良く過ごせるような工夫がされている。		